

甲賀市の文化財④

甲賀の祇園花行事

甲賀の夏を彩る伝統行事に「祇園花行事」があります。この行事は花を奪い取るところから「ハナバイ」とも呼ばれ、7月から8月上旬の最も暑い時期にかけて、祇園系統の神社で行われるものです。県指定を受けている甲賀町の「大原祇園」の他、水口、土山、甲南、信楽地域で14箇所の祇園花行事が県選

択無形民俗文化財となっています。

この祭りには真っ赤な造花を刺した花蓋はながさや、しなるように美しく花で飾った作り物が登場し、中世芸能に起源をもつ「風流作り物」の面影を見ることが出来ます。そしてその特徴は花蓋に突き刺した花や団扇を、先を争うように激しく奪い合い、花蓋そのものを破壊してしまうところにあります。中でも7月24日に行われる甲賀町大鳥神社の大原祇園のハナバイは激しく、警護によつて打ち下ろされる青竹をかくぐつて花蓋を倒し

もみ合うようにして花を取り合うため、ケンカ祭りとも呼ばれています。その昔、村に病がはやるのは悪い神様「疫神えきじん」の仕業と考えられてきました。疫神の機嫌を損ねないように、賑やかに花により付かせ、村から出て行つてもらわねばなりません。神

▲大原の祇園行事(大鳥神社)

送りました後、依しろとなった花蓋はいち早く壊す必要があります。7月に行われるのは、梅雨が終わったこの時期が最もむし暑く、疫病は流行りやすかったからです。奪い取った花は大事に家まで持ち帰り、戸口に掛けておくと、災いが除かれると言われ伝わります。

この祭りは、荒ぶる神スサノオ命を祭神とし、尾張の津島神社の祇園信仰が伊賀地方を経て甲賀地方にも伝わったものとされ、同様の行事が伊賀にも広く残っています。

「甲賀郡誌」によれば、文禄4年(1595)の豊臣秀吉禁制(大鳥神社旧蔵)に「祭礼造物不入楼門已前、奪取間敷事」とあることから、大鳥神社では近世初頭には作り物を伴った祭礼があつたと考えられ、それが徐々に周辺の地域にも浸透していったのでしよう。

風流の伝統を今に伝える貴重な民俗行事「ハナバイ」。これからも守り伝えたいものです。

【問い合わせ】

文化財保護課

☎ 86-8026
FAX 86-8380

一六さんのさまざまな名前

今年の水口出身で明治の代表的な書家の一人である巖谷一六さんの没後一〇〇年の年にあたります。

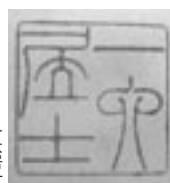
一六さんは多くの名前をもつた人でありました。皆さんが一番よく耳にするこの「一六」という名は雅号と呼ばれるものです。雅号とは「文人・画家などが本名以外につける風雅な別名」で「一六」の名前の由来は、当時勤めていた官庁の公休日が一と六のつく日であつたことから名付けられたといわれています。

他には、東京の駒井町に住んでいたときにはコマイにもじつて「古梅」としたり、錦鶏問伺候(名誉称号)で貴族院議員であつたことから「錦」と「族」をとり「金栗道人」としました。また、官庁の休暇に書に励んだというところから「喩霞楼」といった雅号がみられユニークで洒落た雅号をその時々によつて使い分けています。

一六さんの本名については、幼名を「辨治」といい、成長してからは「立的」、後に「迂也」とします。明治政府に勤めてから「修」と名乗りました。



巖谷修字諱印



一六居士



金栗

巖谷一六印譜集より
水口歴史民俗資料館蔵

そして、字は「誠卿」といいます。

書は難しくてわからないと思われる方も、ここに載せました雅号や字などの落款印は、ユニークなものも多くありますので面白く感じるのではないでしようか。

当資料館では、講演会にあわせて7月23日(土)から、巖谷一六・小波記念室で一六さんの書のミニ展示を行います。ぜひこの機会に一六さんに触れてみませんか。

【問い合わせ】

水口歴史民俗資料館

☎ 62-7141
FAX 63-4737